※令和４年度以降入学生用

学校番号	２２０１

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	政治･経済	単位数	２	年次	２～４
使用教科書	高等学校 政治･経済　（第一学習社）						
副教材等	テーマ別資料　政治・経済　（東京法令出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・政治や経済の基本を学ぶことで、現代社会の問題だけでなく、自らの生き方について考えることにつながります。様々な立場の考えに対して、広い視野を持つよう意識しましょう。
・教科書や資料集を用いて学習をすすめますが、適宜、視聴覚教材や新聞記事などを用いて具体的な問題や事象について取り組みます。

２　学習の到達目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

① 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
② 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
③ よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期(後期)	第１編　現代日本の政治・経済の諸課題	第1章　現代日本の政治・経済 第1節　日本国憲法と現代政治のあり方 ①政治と法の意義と機能 ②法の支配と立憲主義 ③基本的人権の保障と日本国憲法 ④現代社会における新しい人権 ⑤権利と義務との関係 ⑥議会制民主主義と世界の政治体制 ⑦国会の組織と立法 ⑧内閣の機構と行政 ⑨裁判所の機能と司法制度 ■諸課題へのアプローチ 「現代政治のあり方」	a:政治や政治権力の意味とその役割、法の支配や立憲主義の意味と意義、基本的人権が確立した背景や経緯、新しい人権が主張されるようになった背景や、新しい人権の具体的内容、人類は人権保障に向けてどのように努力してきたか、民主政治の考え方と、議院内閣制や大統領制の特徴、国会の地位と構成、法律はどのようにして成立するのか、日本の内閣と国会の関係、内閣総理大臣と内閣の権限に、司法権の独立と日本の裁判制度について、理解している。 ｂ：法の意義と機能、国家の統治原理として、法の支配や立憲主義を確立することの大切さ、個人の尊重や憲法によって保障されている自由や平等、権利と義務との関係、よりよい民主政治のあり方、国会の課題、今後の行政の課題、国民の司法参加のあり方、日本国憲法と現代政治のあり方との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ｃ：「日本国憲法と現代政治のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査(論述) ワークシート	授業観察 振り返りシート ノート (プリント)
		第2節　望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方 ①地方自治制度と住民の権利 ②政党政治と選挙 ■諸課題へのアプローチ 「主権者としての政治参加のあり方」	a：地方自治の本旨の意味と日本の地方自治制度、政党の意義と役割について、理解している。 b：地方自治における住民の権利と住民運動の意義、日本の政党政治や選挙の課題、望ましい政治のあり方および主権者としての政治参加のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：「望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査(論述) ワークシート	授業観察 振り返りシート ノート (プリント)
		第3節　市場経済の機能と限界 ①経済活動と市場 ②経済主体と経済循環 ③国民経済の大きさと経済成長 ④　物価と景気変動 ⑤市場の失敗と公害・消費者問題 ■諸課題へのアプローチ 「外部不経済の内部化の方法」	a：経済の役割と、市場経済における人々の選択、資本主義経済の特質とその変容、三つの経済主体の活動と、経済循環における役割、株式会社のしくみと株主との関係、ストックとフローの概念や、ＧＤＰなどの指標、経済成長率における名目と実質の違いや、経済成長の要因、インフレとデフレの原因と影響、景気変動のしくみ、物価や景気の変動に対する政府の施策について、理解している。 b：価格はどのようにして決まるのか、具体的な市場を取り上げ、企業の社会的責任のあり方について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：「市場経済の機能と限界」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査(論述) ワークシート	授業観察 振り返りシート ノート (プリント)
		第4節　持続可能な財政および租税のあり方 ①財政のしくみと租税の意義 ■諸課題へのアプローチ 「持続可能な財政を実現するための税制のあり方」	a：財政の機能としくみ、租税の種類やその特徴について、理解している。 b：財政における国と地方の役割分担、持続可能な財政のあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 c：「持続可能な財政および租税のあり方」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査(論述) ワークシート	授業観察 振り返りシート ノート (プリント)
		第5節　金融を通した経済活動の活性化 ①金融のしくみとはたらき ■諸課題へのアプローチ 「資金の流れと起業における資金調達のあり方」	a：金融の働きと金融機関の役割、日本銀行の金融政策とその影響について、理解している b：現在の金融をめぐる動向とその課題、金融を通した経済活動の活性化のしくみやあり方を多面的・多角的に考察、構想し、表現している c：「金融を通した経済活動の活性化」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査(論述) ワークシート	授業観察 振り返りシート ノート (プリント)

※令和４年度以降入学生用

		第6節　経済活動と福祉の向上 ①日本経済の変化と中小企業･農業問題 ②労使関係と労働問題 ③社会保障制度と福祉のあり方 ■諸課題へのアプローチ 「格差の理由とその対策」	a:日本経済における産業構造の変化、現在の日本経済の現状と課題、労働三法の内容、日本の社会保障制度について、理解している b:日本の中小企業や農業経営者が直面している課題、現在の日本の労働問題や労働環境をめぐる課題、日本の社会保障制度の課題、経済活動と福祉の向上との関連について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c:「経済活動と福祉の向上」について、よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。	定期考査 小テスト	定期考査(論述) ワークシート	授業観察 振り返りシート ノート (プリント)

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度